



HORI CLINIC

ほり内科外科クリニック

2024.12.13 OPEN

開院記念誌

長く地域に愛される
クリニックを目指して



沖縄で地域医療の 教えを乞う



沖縄県那覇市にある医療法人がんにゅう安謝(あじや)ファミリークリニックで院長を務める高良吉迪先生は、佐賀大学医学部出身で学生時代から仲良くもらっている友人です。卒業後は佐賀大学医学部消化器内科に入局され最先端の内視鏡治療を学ばれた後、令和4年にお父様が開院された安謝ファミリークリニックを新築移転し安謝ファミリークリニックを開院され、今回アドバイザーをいただきに現地に赴きました。地域医療の心構えはもちらんのこと、設計において患者さんにとストレスがないようにした工夫や小児科があることによる特徴など参考になる意見をたくさん聞きました。「堀君は学生時代からマネ



ジメントやプロデュース能力に長けていて、クリニックにおいては患者さん個々に合わせて医療を提供するのが大事なのでその能力を存分に発揮できると思います」と応援の言葉もいただきました。ありがとうございました。また医局在籍時に大変お世話になった、現在琉球大学胸部心臓血管外科教授の古川浩一郎先生にクリニック開業の報告に伺いました。現在琉球大学は移転作業の真っ只中とのことで、教授室への訪問はできず沖縄料理を食べながらでしたが、積もる話ができ、「ひとりで抱え込まずに周りの医療機関と信頼関係を築いていくこと」「これからどの指導をいただきました。ありがとうございます！」

開院のご挨拶

はじめまして、ほり内科外科クリニック院長の堀晋一朗と申します。私は佐賀で生まれ育ち、医師となつてからも佐賀市内で勤務しておりましたので、どこかで関わりがある方も多くいらつしやると思います。当院は皆様が健康面で何か困ったときに気軽に受診して相談ができるようなクリニックを目指しています。「何科ですか?」と聞かれることがあります。その定義にこだわりはありません。「内科でも」「外科でも」ありますが、総合診療とは違う気がします。病气やケガで困ったときにまず頭に思い浮かぶようなクリニックになりたいと思っています。専門性を有する検査や治療が必要と判断すれば他院へご紹介させていただきますが、安定した時期は当院での経過観察を希望してもらえような信頼できる地域のクリニックとして存在できるように努力していきます。



院長
堀 晋一朗

Staff Message 当院スタッフより

医療事務より

当院では、WEB予約と当日直接来院される患者様を並行して受け付けております。予約された方を優先して案内いたしますが、直接来院された方もなるべく待ち時間が少なくなるよう努力いたします。また、ケガなどで急ぎの処置を必要とする方も優先して案内する場合がありますのでご了承ください。会計は自動精算機を採用しています。当面は現金払いのみの対応ですが、今後は各種決済方法にも対応していく予定です。診察前後の待ち時間をなるべく作らないよう院長とコミュニケーションを図りながら事務スタッフ一同努力してまいりますので安心してご来院ください。



看護師より

看護業務を行う処置室、点滴室では受診される皆様がストレスなく検査や治療を受けていただけるようにと考えています。当院はWEB問診を採用しておりますが、文章では表現しにくい症状や要望は遠慮なくお伝えいただければ嬉しいです。また当日の診察・検査での疑問点も胸に抱えたまま帰宅せず、ぜひ看護師にお伝えください。常に清潔な状況を保ち、リラックスできる空間をつくって皆様の来院をお待ちしております。



| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 8:30~16:00 | ● | / | ● | ● | ● | ★ | / |

【休診日】火曜・日曜・祝日 ★…8:30~12:30

お気軽にお問い合わせください
0952-20-1730

ほり内科外科クリニック 検索 <https://hori-clinic.net>

〒840-0805 佐賀県佐賀市神野西1丁目5-10

JR佐賀駅より徒歩約10分、神野小学校ちかく

おわりに

当院は令和6年12月13日に開院いたします。クリニックを開院するにあたり、私の理想やこだわりを受け入れ、実現できるような努力してくださった関係各位の皆様にご場を借りて感謝を申し上げます。また医局を退局したにもかかわらず、開院報告の際に温かい言葉をかけていただいた蒲原啓司教授をはじめとする佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科の皆様にも感謝を申し上げます。今回堀野先生と織田先生のお二人と対談させていただき、改めて感じたいのは受診される皆様に求められる存在であり続けることの大切さです。私がかもともと専門としていた呼吸器外科は肺がん治療を中心として専門性が比較的高い分野でしたので、当院開院にあたり内科・外科にかかわらず幅広く医療を提供できるような準備を志してまいりました。私が目指す何か困ったときに気軽に受診して相談ができるようなクリニックになるために、これまで培ってきたことを活かしながら、今後も引き続き努力していきます。

目指すべき医療のカタチを考える



織田病院と姫野病院はそれぞれ佐賀県南部地区と福岡県八女・筑後地区において地域医療を支える二次救急医療機関で、どちらの病院も医療界では革新的な挑戦を続けている病院として知られています。

今回対談させていただいたお二人は若くして病院の経営に参画された若手経営者界のトップランナーであり、これからの地域医療を支えていく中心人物です。ほり内科外科クリニックにお二人を招き、当院が目指すべき方向性について指導を仰ぐつもりでこの対談を企画しました。とても勇気づけられ、勉強になる話をたくさん聞くことができました。

それぞれの接点は？

堀 開業記念誌の企画としてこの対談を考えたとき、僕が別々の機会でお世話になったお二人にはとても共通点が多く、対談という形で話が聞けると面白いなと思ったのですが、もともと面識はありますか？

織田先生（以下、織） 姫野先生とは10年ほど前に全日本病院協会の若手経営者の会で初めてお会いしました。若手経営者といっても30代前半で参加している人はほほいらない中で、親しみやすさと優しさのオーラが溢れ出ている姫野先生を見つけて安心した記憶があります。

堀野先生（以下、堀） 織田先生は仕事ができる人というオーラがすごくあって僕は少し話しかけにくかったかな（笑）。織田病院自体が先進的なことをたくさんやられているのでそう感じたのかもしれない。それ以降はたくさんお話しする機会があり、病院を見学に行かせてもらった

こともありま。堀先生は2022年から姫野病院に勤務していただいています。内科外来・訪問診療・救急外来といういろいろな現場でいろいろな患者さんを分け隔てなく診ていただいて、その内容も安心してお任せできるものだと思っています。そんな患者さんでも分け隔てなく診るといふ姿勢は地域医療の医師像として非常に大事ですし、姫野病院として掲げている理念でもあるので、それを実践していただき感謝しています。

堀 姫野病院での勤務は医局を辞した後、暗模索しながら応募したのが始まりですが、勤務していく中で徐々に役割を増やしていただきとても感謝しています。開業後も勤務を継続させてもらい、引き続き内科医としての研鑽に励みたいと思います。

織 堀は学生時代から客観的に自分を見て、やりたいことに対して計画的に取り組んでいる印象があるかな。部活や医局とか、どうしても区切りをつける必要がある場面でも、

姫野 亜紀裕 先生 (44)

医療法人八女発心会 理事長
姫野病院 院長



1980年、福岡県生まれ
北海道大学医学部卒業
国立病院機構京都医療センターで糖尿病内科医として、
聖隷浜松病院で腎臓内科医として勤務
39歳で姫野病院院長に就任
39歳で医療法人八女発心会理事長に就任
子供3人の父(12歳、8歳、5歳)

織田 良正 先生 (42)

社会医療法人祐愛会織田病院 副院長
佐賀大学医学部医学科 臨床教授



1982年、佐賀県生まれ
佐賀大学医学部卒業
佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科で外科医として、
総合診療部で内科医として勤務
39歳で織田病院副院長に就任
41歳で佐賀大学医学部医学科臨床教授に就任
子供3人の父(11歳、9歳、6歳)

家族の経営へのかかわり方と子育てについて

堀 もっと自由にいろいろな勉強をしたいという想いもありました。ただ当時のなかで医師確保が難しく、透析を管理する医師が必要だったという状況から医師7年目で自分の病院に戻りました。院長就任当時からまず「仏になろう」と思って、姫野病院にかかわる皆様の意見すべてに耳を傾けてきましたが、今後は自分の色も徐々に出して、若くして経営者になったことを活かしていきたいです。

織 僕は自分が何をしたいかというよりも、人に求められることに全力を注ぐ方が可能性は広がると思っています。その中心に自分の病院を置くことがあったので迷いやジレンマはありませんでした。最初には心臓外科を選んで、その後総合診療部にお世話になっていますが、今では外科医としての経験が救急の現場や普段の診療にも活かしています。常に20年後の自分を想像して決断をしています。感じですかね。

堀 クリニック運営において、妻には看護師と医療事務を兼務してもらい、二人三脚で頑張っていくつもりです。子供たち（7歳、5歳）にも確実に影響は及ぶので、家族4人で頑張ろうという思いをロゴマークにも込めています。奥様が看護師資格を持たれていることが私を含め共通点なのですが、どのようなかかわり方をしていますか？

織 妻とは「家庭と病院を切り離すことができない」ともあって、同じマインドを持つ同志として仕事も子育てもやっています。去年までは法人内の介護施設での看護師業務を、今年からは病院経営や広報をしています。僕に対してはもうそういうように妻に対してはもう周りからの期待は大きいですが、それに応えてくれ

地域のニーズに応え続ける姿勢

クリニックに求められるのは安心感

投げ出すことなく役割をつなぎながら次に向かっていく姿勢を示しているから周りにも支持してもらえていると思う。今回のクリニック開業でも、姫野病院で計画的にしっかりと学ぶ期間を作ったことが、外科はもちろん内科も診てくれるという患者さんの安心感に必ずつながると思えますよ。

それぞれの病院が担う地域での役割と求めるクリニックの役割

堀 地域医療において病院が担う役割の中で特に重視していることはありますか？

堀 姫野病院は、病院で患者さんを受けたいのではなく、自ら迎えに行くといい姿勢を重視しています。高齢者で移動手段がない方や、入居者を病院へ連れてくるのも大変な施設のために訪問診療や無料送迎を、急を要する状態の時はナースカー（姫野病院が独自に運用する看護師同乗の病院救急車）を運用しています。医療体制の中でこぼれ落ちるというか難民になる患者さんにとっての駆け込み寺であり続けたいです。

織 常に大事にしていることは、地域のニーズに応え続けることです。時代によってニーズが変わっても患者さんが求める存在であり続けること。ただどの時代でも救急部門に求められることは変わらないと思っています。いかに救急を受け入れるかを重視しています。あとは地域医療の最前線で最先端の医療を実施することと若手医師が望んで働きたくなる病院にしたいと頑張っています。

堀 当院のような地域の無床診療

の信頼できるパートナーだと思っています。
堀 うちの場合、今は実務的なこと以外の部分で僕のことを支えてもらっていて、僕を客観的に見てツツコミを入れてもらうという立ち位置で病院にかかわってもらっています。結果的にそれがいい距離感なのかと思いに至りました。子育てに関しては保育園の送り迎えなどを中心に、同じような立場の人間の中ではコミットしている方だと思っています。

今後目指していく医療のカタチとは

堀 そう遠くはない未来として、20年後の医療界を想像して、変わるかもしれないことって何があると思いますか？すでに準備されていることなどあるのでしょうか？

織 少子高齢化が進むと、高度医療はより集約化が進んでかかりつけ医の役割が大きくなります。また労働人口の減少や物価上昇による影響を最小限にするために医療機関同士の連携も重要になると思います。デジタル化については想像できないような未来になっている可能性が高いですね。

堀 はい。今後確実にAIが多くの役割を担うようになってくると思うのですが、そうなると思えばかたがた、受診後に心が晴れやかなった状態になってもらえるような共感力であったり患者さんに寄り添う能力というのが大事になると思います。いま僕は将来に向けてAIよりもそちらの能力をいかにして磨くかという探求をしています。

所に求められる役割はなんですか？

堀 大きな病院を受診するというのは患者さんにとって結構ハードルが高いので、なにか困ったときに気軽にできるクリニックが近くにあると非常に心強いはずですが、また年齢が高くなると疾患も増えますが、それぞれの専門科をたくさん受診するのは難しくなるので、なんでも診てくれるかかりつけのクリニックは患者さんに安心感を与える存在として絶対に必要です。

織 クリニックはかかりつけ医として今後役割がより大きくなっていきます。国が求めているかかりつけ医としての機能をクリニックが満たしていくには、病院と機能をつなぐシエラしていく協力体制が必要になると思います。

若くして経営に参画した経緯とそれに対するジレンマ

堀 僕は呼吸器外科医を志したときは医院開業をイメージしていませんでしたが、仕事での経験やライフイベントの中で徐々に開業を志し、38歳で今に至ります。新規開業のタイミングとしては早いほうですが、遅ければいいというものでもありません。資格や経歴に華々しさがないのをコンプレックスに感じることもありますが、ずっと佐賀で医療をしてきたことは患者さんにとって安心材料になると思います。お二人は若くしてご自身の病院に戻られていますか、その経歴をどうとらえていますか？

織 医療の特性上、完全にオンラインに移行することはないので、ハイテック&ハイタッチとかいうか、人間としてデバイスとの共存をいかにしていくかが大事になると思います。

堀 最後になりますが、何か応援メッセージをいただけませんか？
堀 堀先生の方針というか理念を聞いて、時代にあったクリニックや医師像を目指されていると思いました。専門性の強いクリニックが多いと、迷子のような患者さんが増えてしまうので、そういった方々を一人でも多く救済してもらって、安心できるかかりつけ医になってもらいたいですし、そうなるという姿が目に見えます。地域のために、ぜひ頑張ってください。

織 応援しなくても大丈夫なのは間違いないですし、むしろ楽しみにしている気持ちがあります。いろいろな可能性があるので、思い描く医療を夫婦二人三脚で思い切って実践していってください。

堀 本日は貴重な対談の機会をいただき誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。

